

1 キリスト教神学入門

山崎チャペル内一宮基督教研究所

安黒 務

E-mail: aguro@nth.biglobe.ne.jp

http://www.aguro.jp/

2 キリスト教教理入門

1. 神学をすること

2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪

2. キリストの人格

8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

3 第十二部 終末論

1. 56.終末論導入

- 57.個人終末論
- 58.再臨とその結果
- 59.千年王国と大患難
- 60.最後の状態
- 結論

2. 第38章 導入的事柄と個人終末論

- 第39章 再臨とその結果
- 第40章 千年王国と大患難の見方
- 第41章 最後の状態
- 結論

4 第40章 千年王国と大患難の見方

1. 千年王国の見方

1. 後千年王国
2. 前千年王国
3. 無千年王国
4. その問題の解決

2. 大患難の見方

1. 大患難前再臨説
2. 大患難後再臨説
3. 中間的立場
4. その問題の解決

5 1. 千年王国の見方

1. 後千年王国

1. 福音宣教の成功裏のうちの進展
2. 社会情勢への関与と進歩の時代
3. 個人的回心より社会的変革が王国のしるし
4. 未来より今ここにある現在の現実
5. 文字通りの千年ではなく拡張された期間

6 1. 千年王国の見方

2. 前千年王国

- ①
1. 一千年の地上支配
 2. 千年至福説
 3. 19世紀中頃より流行
 4. 鍵句: 黙20:4-6
 5. エゼサン二つの復活
 6. 大変動の出来事
- ②
7. 世界大の平和
 8. 再臨前―最悪の状態
 9. ディスペンセーション主義?
 10. 聖書の文字通り解釈?
 11. 啓示の連続的段階?
 12. イスラエルと教会の相違?

7 1. 千年王国の見方

3. 無千年王国

1. 再臨後、ただちに最後の審判
2. 「一千年」は象徴的に
3. 「後千年」と「無千年」―単純に区別されず
4. 黙20章の扱い―黙示録全体を考慮に
5. 黙示録は全体として「象徴的」
6. 何を象徴―聖なる数「七」と「三」は結びつき完全数「十」、3乗されて全体的な完全の「千」
7. 主要な解釈学的問題―「二つの復活」
8. 第一の復活「霊的」、第二の復活「肉体的」―真性の欠如
9. 預言―未来的・文字通りより、歴史的・象徴的に解釈
10. 再臨のしるしに対する熱心な研究なされない

8 1. 千年王国の見方

4. その問題の解決

1. より困難の少ない見方を見出す努力
2. 福音宣教における楽観主義―不適切
3. 再臨前に信仰が冷める
4. 教理は単一の箇所に依拠すべきではない
5. 前千年王国説―聖書により適合
6. 時間的順序、二段階の復活―より適切

9 2. 大患難の見方

1. 大患難前再臨説

1. 歴史上かつてないほどの大患難
2. 教会の携挙―空中再臨
3. 二つの再臨、三つの復活
4. 患難から教会を解放すること
5. 選民が患難の期間に存在する: マタイ24章
6. 次の瞬間にも再臨が起こりうる
7. 目を覚ましているように
8. 次の出来事―再臨＝祝福された望み

10 2. 大患難の見方

2. 大患難後再臨説

1. 再臨—大患難が終わるまで起こらない
2. 最近の出来事を文字通りに解釈しない
3. 「選民」という用語＝「信者」を意味
4. 「神の怒り」と「大患難」との相違
5. 患難は、世紀を通じて「教会の経験」
6. 「エクフェューゴー」＝その只中において守られる
7. 「アパンテス」＝会い、伴ってパーティに歓迎する
8. ひとつの再臨、二つの復活
9. 大患難の只中で保護し、保たれるという確信

11 2. 大患難の見方

3. 中間的立場

- 多くの調停的立場
 1. 大患難中期再臨説
 2. 部分的携拳の立場
 3. 切迫した大患難後再臨説
- どれも多数の支持者得ていない

12 2. 大患難の見方

4. その問題の解決

1. 大患難前再臨説—不自然、聖書支持せず
 - 再臨の二段階、三つの復活、イスラエルと教会の鋭い分離に問題あり
2. 大患難後再臨説—より適切な解釈が可能
 - 選民が患難の中にあり、過酷さから保護
3. 聖書の全般的な趣旨—大患難後再臨説に適合
 - 災難に打ち勝つ力の約束
4. 大患難後再臨説の課題
 - 千年王国に関する神学的理由が相対的に困難に